コルネリオ会

（キリスト者自衛隊員の会）

ニュースレター　№ 31

1981年4月

❀ 超教派

〔エペソ　1：15～19〕

統計によれば日本国内にあるキリスト教の教派と言われるものの数は百を超えている。そして大小さまざまなそれらの教派がそれぞれ教義を発表して教会活動を行っている。勿論正当なキリスト教と言われる教派は新旧約聖書を神の啓示として、自分達の信仰生活の基準をそこにおいている。そしてその理解の仕方、依存の仕方によって多くの分派に分れていると見ることが出来よう。あるものは聖書のみ言葉の一言一句についての霊感を信じ、又あるものは「聖書のみ」と称して真理をそこに求める。

さて我々人間は現在この地上にあって生活しているのであるから如何に聖書のみと言っても聖書の知識以外を無視しては生活することが出来ない。我々は常住座臥聖書にない事をも真理信条として、それによって生きているわけである。

問題になるのはその信条が聖書の主張と異なる場合であろう。元々自然は神の手によって創られたのだからそれを支配する原理は、神の啓示である聖書と矛盾するはずはないのであるが、人間が自然の中からその支配する法則を学び、それを真理としてそれに固執する時聖書と矛盾する場合が生ずる。神が主か、自然が主か、ということである。

聖書は誠の真理であっても、我々の肉の眼をもって読む時その内容を正しく

理解することが出来ず、我々の生活の場でそれを一つ一つ適用することが出来ない。しかしこの場合であっても生活の場での一つ一つは全体として見る時、聖書の主張と合致するのでなければどこかおかしいので、真理を行っているとは言えない。聖書を読みこれを神の言葉とする人達の間にも、その理解の仕方にはかなりのへだたりがあり、そのために色々な相違や問題が起こって来る。我々の生活は世代の変化と共に変化があり、その生活指針にも変化を生ずるので、それによって聖書の理解にも変遷がある事は致し方がない。しかし聖書を神のみ言葉とする以上、その中心となる条項については永遠にわたって変更はあり得ないわけである。

開国以来異教的な基盤と習慣で固まっている日本の国内で正しい信仰に入ろうと思えばそれらの習慣を一度に正す事は困難なので、始めに信仰に入った時の宗教体験が重視されることになる。即ち聖書の中で特にこの時に関連したみ言葉、行動のみが重視される事は自然であろう。

信仰は理屈ではないので、ある特定の部分に固執する事は或る程度止むを得ないが、それに固執する余り、異なる信仰体験を重視するグループと兄弟としての交りが出来なくなったとすれば、それは重大な聖書違反ではなかろうか。

神は我々に特異な方法によって聖書を与えられたと同時に教会の基を建て、使徒ペテロを通して現在のキリスト教会を伝承されている。我々はこの聖書と伝承とどちらを重視すべきであろうか。

我々が聖書を理解し、その信仰を保つためには、救われて以来経験した神との交りの中にあっての信仰体験が重要であり、特に回心につながる体験は地上の体験と言うよりは寧ろ超自然的なものがあるかも知れない。そして我々はそれぞれの体験を大切にしながら信仰生活を行っているわけである。しかし一方

教派によっては聖書のみ言葉の中から絶対の無抵抗主義を強調したり、地上の争いを否定したりするものもあるが、聖書は現時点で国家間の争いが無くなるとは言っておらず、むしろその逆であり、又我々クリスチャンの力で地上の悪が無くなり天国がやって来る等とも言っていない。我々は好むと好まないにかかわらずこの地上から逃避することは許されず、しっかり足を地上にふまえ

て、その目的とする所は聖書のあかしする神の国であり、それを待望した世界の平和であり、そのための祖国防衛でなければならない。我々はクリスチャンとして夫々異なった教団教派に属していてもその目標とする所は一つであり凱旋すべき所は神の国である。そして天国につながる信仰として大切な事はそれぞれが受ける個々の体験ではなく、聖書を通して誰にでも同じように語りかけられているみ言葉である。

われわれクリスチャン自衛官は国内のそれぞれの教派教会に属しながら、この地上でその目標とする所に向かって邁進し、互いに助け合いながら各自衛隊内で健全に育成されることが重要である。又正しい自衛隊の運営のために防衛庁文民の中に超教派のクリスト者部員の育つ事を祈らなければならない。

✽ コルネリオ会と私（その２）

松山 暁賢（八戸会計隊）

44年３月、２年８ケ月間の別海生活に別れを告げて、再び札幌市真駒内（11師団司令部）勤務となった。当時の別海は、陸の孤島と呼ばれたところであるが、私にとって、実に懐しい土地であり、コルネリオの友から離れてはいたが、手紙や電話で励まされ、最寄りの各種教会との交わりにより、信仰的にも強められた思い出の土地でもある。

1. ５周年目の真駒内伝道所

44年度は真駒内伝道所創立５周年記念の年であり、文集「からしだね」特集の発行、記念特別伝道講演会等の記念行事が計画された。

特別伝道集会では、作家の三浦綾子さんの講演を伝道所附属の幼稚園に200名以上の聴衆を集めて実施した。当時の三浦綾子さんは「氷点」・「塩狩」・「羊ケ丘」等の数多くの小説を出版されており、女性ファンの多い人気作家であったが、ご挨拶の中で「私は、作家と呼ばれるにはまだまだ未熟です。私の家は雑貨商であり、作家でなく雑貨です。」と話され、また「私の作家への道を強く支えてくれたのは、私が誇る夫（光世）です。」と云って、先ず、三浦光世氏を聴衆の前に紹介され、万雷の拍手を浴びた。三浦さ

ん夫妻はかつて矢田部兄が所属されていたことのある、旭川六条教会の会員であり、私も約3ケ月お世話になったので今でも忘れられないのであるが、夫婦仲がよく、いつも肩を寄せ合うようにして教会に来られるお二人であった。

文集「からしだね」特集は、三上兄と私が中心となり編集し、記念行事の一端を担ったのであるが、伝道所の文集としては、立派なものであり、懐かしい思い出として今でも大事に保存している。

2. コルネリオ会の再編成

このころのコルネリオ会は、武田兄、小森兄が内地に転出され、教会員では、三上兄、大貫兄、椎名良三兄（現・稚内沿岸観視隊）、内脇泰政兄（当時・11対戦車隊）、熊野政重兄（11輸送隊）、教会外では、小川敏夫兄（当時・北方総監部会計課長）、高橋兄、椎名隆子姉（当時・札幌地病ナース）等がおられ、多くの場合、伝道所壮年会と合同で実施されたが、コルネリオ会員の家庭集会も期に1回実施された。

その中で、小川会計課長官舎でのコルネリオ会では、奥様の接待がよすぎて、奨励中にもご馳走が沢山出たのであったが、牧野先生（伝道所牧師）から注意される一幕もあった。しかしこのころは楽しいコルネリオ会作りの時代であった。

また、防大の溝口先生、今井先生が札幌に出張で来られたとき、伝道所を訪問され我々を激励されたのもこのころであった。

翌、45年、防大教授陣を中心にOCUの見なおし、再編成が行われ、機関誌「ニュース・レター」の発行が議論された。創刊号をいただいたのは、神奈川県葉山のYMCAレーシー館で行なわれたOCU修養会のときであった。

3. 椎名兄の結婚式

44年11月吉日・椎名良三兄と隆子姉（ともに2等陸尉）の結婚式が真駒内伝道所で挙行された。仲人さんは当時11師団副師団長の西田秀男将補、式場には新郎新婦の同期生等、特科連隊幹部を中心に自衛官一色の教会結婚式であった。勿論、現地コルネリオ会にとっても、結成以来最大の行事として全

面的に支援した。

この椎名兄、3人の男子という子宝に恵まれ、現在北の果て、稚内で沿岸観視に任じておられ、また隆子夫人は専ら主婦業？。ともに札幌コルネリオ会を支えてこられた代表選手です。同兄ご一家の上に神の豊なお恵みがありますように。（次号につづく）

❀ AMCF 祈禱項目

国際 OCU は1980年7月の国際大会に於て AMCF （Association of Military Christian Fellowship）と改称されることになった。そして国際AMCFの新会長米陸軍バッキンガム少将の提案によりAMCF の祈禱日をもうけ各国から寄せられた祈りの課題について時を同じくして祈ることとなった。本年の祈禱日は4月10日（金）である。なお国際AMCF 主事 C.N.Tokatloglou 氏からの呼びかけとして、祈りは4月10日のみでなく、その後に於ても鋭い武器として続けられ、世界中の AMCF の信仰と愛の霊的な手をつなぐ手段として参加されるよう奨められている。国際会長の挨拶および祈禱項目をつぎにかかげる。

○ 国際AMCF会長、米陸軍バッキンガム少将挨拶

「御在天の父よ、キリストの血により、我らすべての罪が清められたことを感謝します。全ての国の軍隊にある男女を祝福し給え。また、キリストの下に全て一つなり、という喜びを知っている我らをあなたの愛で満たし、その喜びを再臨の時までに、他の人達に伝えることをえしめ給え、アーメン」

この祈りは1930年オランダの Zuylen 城で開催された第一回国際大会の際我々共通の祈りとして成文化され採り上げられたものである。全ての国の軍隊にある男女の上に焦点をおいて、キリストを神として救い主として知り、また彼ら軍人の生活をとおしてキリストを崇めるため、この AMCF 国際祈禱日が設けられたことは喜びにたえない。

特に我々は、その軍隊内においてイエスキリストのための証しが組織されて

いない国のため祈りたいと思います。

主にして全能にあり給う神よ。

バッキンガム少将

讃美と祈りについて各国から寄せられた項目

地区	国名	讃美	祈り
アフリカ地区	ガーナ	会員は少数であるが、毎週火曜日の祈り・聖書の学び会に加え、金曜日の全夜を祈りのために参加できる全ての人に開校し祈り会をもっている。	軍隊内にいる信者の心の中に聖霊の深き働きがあらんことを（the Padresを含めて）
	マラウィ	参加者は少ないが、火・金曜日の週2回交わりを持っている。そこで讃美し、聖書研究を、また入院中の病人を訪問する計画を立てる。	この少数の群が増え、主の御名がマラウィ軍の全兄弟に広まらんことを。
	ナイジェリア	イエスの下に交わりを持つ喜びは、空軍基地及び、その近くの2つの陸軍部隊でクリスチャンの交わり会が新たに作られたことである。	軍の隊員の心の中に、キリストを知らすことができますように、我々リーダーにそのためのとりつぎの力を与えられますように。
	ルワンダ	スワニック大会は天与のすばらしいものであった。これにより世界のメンバーに統一が与えられた。聖霊の御働きが軍人に臨み、今では多くの祈り会を持つようになっている。	未開発地域、特にアフリカ大陸を侵略せんと共産主義者とイスラム教徒が計画を企てていることを知っている。このために祈りたい。
	セネガル	私の軍の何人かの同僚が主を受け入れようとしている。彼らは聖書を学び、その内の1人は聖書を買い読んでいる。彼のバックグランドはカトリックである。	イスラムの主な2つのグループのうち1つは、大変興奮している。彼らは、攻撃的なことがある。彼らはマホメットの肖像を家．車．事務所に掲げる。その信仰にはまじめなものがある。主のみが慈悲により彼らの目を開かせることができる。
	シェラ・レネオ	主の愛と力（を讃美する）、それにより国中を走り廻りギデオンの新訳配布、説教等を行う力が与えられる。	教会の建設、自動車の購入は主の働きのため必要である。主は全能であられる。
太洋州地区	オーストラリア	• 軍のクリスチャン活動で参加者が増えたことを感謝する。 • Capt Jim Wallaceと妻Poppy WallaceはPerthに戻り、万事うまくいっている。	個人及びグループの伝道活動が効果的に行われるように。
	ニュージーランド	最近の活動の活発化と多くの新しい関係を感謝する。就中、多くの信者を若い海軍の兵士の中にもたらされいることを。	軍の全てのクリスチャンが新鮮なビジョンと新しい力をもって救いを多くの人達に広めることができるように。

地区	国名	讃美	祈り
アジア地区	インド	今年の初めに神が我らに弟子を作る者を派遣することを可能にし給うた。それは1組の夫婦と独身の兄弟である。前者は空軍兵士のためにインド東北部のGauhati に、後者は、Bangalore の空軍基地へ派遣された。	彼らのために次の7つについて祈られたい。 ① 霊的活力（コリII 4＝16）②肉体的活力（ローマ8＝11） ③ 彼らの家族のため（テモI 3＝4.12） ④ 孤独との斗い（テモII 4＝16, 17） ⑤ 彼らの職務（Ministry）（コリII 5＝14） ⑥ 奉仕と柔和な態度（マルコ10＝45） ⑦ 他のクリスチャンとの交わり（詩133）
	インドネシア	前年のスワニック国際大会の業績（40か国の参加"主は全能"のテーマ、大会は天の祝福下にあった等）	全世界の軍隊に福音を伝えること。
	パキスタン	大統領はクリスマスに国内の信者に対しメッセージを放送した。このことはわれらクリスチャンが国の発展に寄与していることの証しであり、また信仰の自由が与えられ、伝道の自由が与えられていることを主に讃美したい。	教会と宗派の間の統合のため祈りたい。このためリーダーと奉仕をする人の誠実のために祈りたい。また、この世をあがなうためのパウロの指示を順守することのためにも。
	フィリピン	毎木曜日の午後、参加者は平均6人であるが、聖研をもっていること。その参加者が他の将校に対し熱心になっていることは我らを多いに励ましてくれる。	各キャンプで聖研が行われる導きがあるように。そのリーダーが将校兵士の間に見つかり、またリーダー同志が会合できることを。"主は全能"であり給う。
	台湾	アジア地区でのAMCF 会合の機会が与えられることを喜ぶ。	バッキンガム会長が台湾の会員に、アジア地区大会参加の案内状を送付賜わり、そのことを通じ当局が登録等の諸手続を行なうこととなり、会員を励ますことになるよう祈りたい。
	シンガポール	昨年、OCF 委員会が設立された。これにより軍の委員会の奉仕（Ministry）におけるOCFのインタレストの面倒をOCF 委員会がみることになる。主に感謝。	• 1981. 8. 9 ～ 15、アジア地区大会のために特に組織委員のために。 • この時代の軍における霊的必要性に対する知恵と感受性のために。
	スリランカ	• OCU 形成の困難により、"Chrismatic Renewal"の群が生まれ、現在の必要を満たすことになった。 • スワニック参加者からの励ましの手紙により力が与えられている。	スリランカの軍にあるクリスチャンに霊的な援助を与えることに努力中の働き人の上にイエスの血の加護があらんことを。
	タイ	AMCFの活動の存在を知り、今までの孤独感はふっ飛んでしまった。軍の多くの人は、信仰のたぐいには背を向けていると思っていたが、その存在によりそうでないことを知った。	Capt. Surasakのために祈ってほしい。神を信頼し、他の信者と接触をもてるように。

地区	国名	讃　　美	祈　　り
ヨーロッパ地区	英　国	1980年の世界大国を開催できた特権を感謝する。主はこの活動を通じ多くことを語りかけてくれた。主が我々に何を語りかけてくれるか前もってはわからなかったが、この大会の立案、実行の経験により、軍における主への奉仕という面でとても力を得ることができた。	会議場の取得・経営について主が力を与え給うを信じる。この計画は久しいものであったが会議中は一隅におしやっていた。今は表に出てきて、主がはっきりと推進するよう語りかけている。適当な場所と財源を捜している。この件で徐々に主の御心に沿って導かれるよう皆様方にお祈りして頂きたい。
	フィンランド	聖霊の喜ばしき新鮮な活動と、国内大会をLahti で、昨年12月初旬開いた主の祝福を感謝する。	
	ノールウェー	スワニックでの奇跡的統一の体験に続いての多くの祝福に感謝する。国内の大会以来、多くの便りを愛する同僚から受けとっている。	国内のルーテル派、福音派、ペンテコステ派、メソジスト派及び他の福音的な派が、詩篇133、ヨハネ17及び エペソ4＝1～16における主の教えの深い、真新しい経験の中にお互いをはぐくむことができるように。
	スウェーデン	スワニック大会参加代表者により我々に与えられた霊感あふれるメッセージを感謝する。このメッセージはB. Ljungberg大佐が帰国後伝えた。	地には平和を、また全ての将校が神の御ことばにより動かされるように。
	西　独	西独コルネリオ会の我々は、若い多くの会員が生まれつつあることを主に感謝・讃美する。	我が国民が謙虚で、主の御顔を祈り求め、また悪の路から離れんことを神に乞いたてまつる。これは、「主が天から聞こしめし、彼らの罪を赦しその国土をいやす(再統一する)」ためである（歴代II 7＝14）
	ブラジル	ブラジリアで昨年、会員が10倍近く増え、約100名となった。	今年は各地でリーダーが起こされるように。
米州地区	カナダ	今年1月30～31日、オタワでの信仰に関するゼミのため、また3年後の1983年末までにキリストの愛の喜ばしきニュースを、軍人に伝えることのできる大計画(strategy)に讃美あれ。	今年5月1～3日、オタワでの国内大会を忘れないよう姉妹方にお願いする。
	ジャマイカ	• 昨年中、主が国民を育ぐくんでくれたことに感謝する。 • 特に感謝すべきこととして、次のものがあげられる。 ① 昨年2月の国内救世活動（ビリーグラハム大会と運動）これから多くが救われた。 ② 選挙前の国内の混乱にかかわらず選挙安定化した。 ③ 多くの混乱の中から、主は「人々の王国」を統治し続けていられること。	主が国の各人に主イエス・キリストに対する深き約束を与えられんことを。特に教会、政府及び軍隊のために。
	米　国	CMF • 新しいCMFのリーダー及び聖研グループのために感謝する。 • 主を受け入れた軍人及び献身者のため主に感謝する。	事務所の増加と、前線でのスタフが成長するCMFの活動のため及び成長に伴う財源の確保のために。
		OCF • 軍においてキリストを証しする自由と特権を感謝する。 • 従軍牧師、教会のグループ及び他のいくつかのキリストの組織のために感謝する。（これらにより伝道が活発に行える）。	地方の聖研のリーダーのために。彼らに知恵、勇気及び力を与えられんことを。これらリーダーが適わしい者となるようOCFが十分機能できるように。

なお　コルネリオ会からの祈り課題は原稿到着がおくれ記載されていないがつぎのようである。会員諸兄の祈りの中に入れて頂きたい。

1. 自衛隊幹部の間に信仰に対する理解が広まり、日本の教会が自衛官の信仰に対し理解を持つようになること。
2. 近く防衛駐在官としてポーランドに着任される森田忠信2空佐および夫人を覚えて、その働きの上に主が大きな力を与え、且つ主の栄光のため在住のクリスチャンと共に励まされますように。

✽ 軍人伝道に関する研究＝日本OCUの源流＝（峯崎 康忠著）の贈呈に対するイギリスより感謝の親書が当時の会長武田宛に来ておりますので、全文を日本語に譯して御披露します。　武田 貴美（名誉会長）

(1) イギリスのＯＣＵ顧問．ゴッドフレイ．バクストン師の手紙：親愛なる武田会長殿、「日本OCUのルーツ」と云う書物を御親切にも御贈呈下さいまして誠に感謝のほかありません。この書物によって神様の御恵みと御働きがあなた方に如何に豊かに表わされ又この109年間に亘って、あなたがたを通じて他の人々にも如何に及ぼしたかと云う点がよくわかります。大変意味深いことだと思います。

私は日本語が読めないので大変残念ですが、あの中の英語説明の部分だけは隅から隅まで念入りに拝見しました。申しあげるまでもないことですが、5頁と6頁に書かれた方々の御名前は特に私の記憶を新たに甦がえらせてくれます。ここに誌された方々が日本OCUの名に於てはっきりと主の証詞をされましたことはわたしたちにとって誠に感謝すべきことであります。私達は必ず実現するとの確信をもって次の様な祈りを致しておる次第であります。数年或いはもっと長い将来かも知れませんが、主がこの地上に再臨せられます時まで、主が絶えず日本の男にも女にも霊的な力を与え、日本OCUの信者の団結に大いに役立つものとして下さるようにとの祈りであります。現にイギリスOCUに於ても、今迄男子を通して恵みが与えられた如く、又夫人や子女などに対し、又彼等を通して豊かに恵みが与えられて来たことはかく

れもない事実であります。私共は同様のことが日本の OCU に於ても起こり得るものと信じております。歴史に於ても主が主を代表する人々を屢々高く用いて来られましたと云うことは誠に興味深いことであります。私はこの事実を見て来ました。私は旧約聖書のエステル書を読み、喜びに溢れました。神様が神様の民のために、神の計画を行うために或る人を起用し給うと云うことに感謝を覚えました。エステル書5章の始めから終わりまで、エステルが如何に勇敢に振舞ったか、神様がモルデカイを如何に大きく働かしめられたか、神様は今日でもその御用のためにエステルやモルデカイを求めておられ、如何に大きく働かしめられるかと云う事を信じております。日本OCUのために祈ります。

茲に重ねてこの書物の御礼を申し上げます。本当に日本語が読めないのが残念です。しかしあの写真は英語の総括文と同様大変興味深く拝見しました。本当に有難うございました。

追伸：私は日本のために祈り、日本と日本の皆様に愛を捧げます。私を生んだ松江のある日本へ感謝し喜びをもって、このお手紙を御送りします。

B. ゴッドフレイバクストン

(2) イギリス OCU 及び国際 OCU 名誉会長．ロバート．ユーバンク将軍よりの手紙：親愛なる武田貴美陸将並びに日本 OCU の皆様に感謝申しあげます。「日本 OCU のルーツ」と題する大変立派な書物を只今郵便にて受取りました。妻のジョイスも私もこの大変興味深い書物を頂いた事をよろこんでおります。この本の中の写真には私共の見知りのお顔も幾人かおられます。日本を訪れた時の日本 OCU 会、ソウルの国際大会、第一次スワニック世界大会、ドイツ．アメリカ世界大会等。

さて今回のイギリスに於ける世界大会「HE IS ABLE」という聖句をかかげ、なんと素晴らしかったではありませんか。次は 1981 年夏、シンガポールに於けるアジア大会のために祈らなければなりません。神様は必ずそれを祝福下さることを信じます。貴下が国際 OCU のアジア担当副会長とし

て色々と努力されたことに対して更めて大きな感謝を捧げたいと思います。私は1984年の韓国ソウルに於ける世界大会で再びお目にかかることが出来れば、なんと素晴らしいことかと思っています。神様の御旨ならばと祈っています。

尚千葉愛爾牧師が病気のためスワニック大会に出席出来なかったことは誠に残念でした。どうぞ千葉牧師御夫妻並びに他の日本OCUの皆様に宜しくお伝え下さい。又貴兄及び御一家の上にも主の御恩寵が益々豊かにあります様にお祈りします。「HE IS ABLE」

尚御同行された御子息の健君にとっても今回の大会はすばらしいものであったと信じます。どうぞ宜しく。

追伸：大会で吉江陸将御夫妻にお目にかかれたことは大変うれしいことでありましたが、お別れを云う機会を失して、大変失礼しました。何卒宜しくお伝え下さい。

終りに著者峯崎康忠教授に感謝します。コルネリオ会20周年記念の年に発刊され且つ沢山の英文抄録別刷の御寄贈を受け、世界大会参加39ケ国に配布出来たことは無上の光栄であり会員一同と共に深く感謝申しあげます。

✽ ウガンダのカレブ・アリアカ牧師の救援についてお願い。

コルネリオ会幹事　矢田部 稔

1. わが国内での報道は少ないが、アフリカ大陸における破壊飢餓の状態には想像以上のものがあるようである。昨夏英国スワニックでの国際大会にコルネリオ会代表11名と共に参加して生活を共にしたウガンダのアリアカ牧師一家について、その窮状が下記のように英国支部、オーストラリア支部および本人から報告されて来た。旧約の時代主は予言者エリヤを養われるのに一羽のからすをお用いになった。（列王上17：6）我々もこのウガンダの窮乏を救う第一歩としてこの牧師一家救済の義援金を送りたいと思いますので特別の献金をお願いします。
2. 英国OCU幹事ナルダー中佐からの手紙（1980. 10. 20）

……前 略……

ウガンダからスワニック大会に参加したカレブ・アリアカ牧師は、この夏一旦帰国したのちオークヒル神学校での課程を続けるため先達って再び英国に帰って来られた。彼からの手紙によると、ウガンダのその地方では共通的なことではあるが、彼の家族は飢餓状態にあり、その故にもう一度家族のもとへ帰りたいとのことであった。

彼について御存知でない方のために申し上げると、彼の住所はカンパラから約 350 マイル、アルアから35マイルのオゴロ村。夫人の名はジャネット、子供は12才・10才・8才・6才・4才・2才の6人である。

地域全体がひどい欠乏に襲われ飢餓が拡がっている。その上、ウガンダの経済は崩壊し通貨は事実上無価値となっている。たとえば、生活必需品の一例をあげてみると、

小麦粉	1 袋	……約6万円
砂糖	1キロ	……約5千円
大豆	1キロ	……約4千円

闇市に行くとなんとか買物はできるそうであるが、彼はつねづねクリスチャンとしてふさわしい生活をしなければならないと云っていたので、彼の家族がそこで買物をすることを許さないであろう。彼の住むアルア地方は飢餓のほかにアミン派の軍隊に蹂りんされたと聞いている。

我々はケニアのナイロビに本部を持つ「ワールド・ヴィジョン」のヨシュア・ハミィドウ中将（OCU 国際連盟アフリカ担当副会長）に対し彼の家族を救援するためよい方法があれば連絡してほしい旨の書簡を出してある。

…… 後 略 ……

3. ナルダー中佐から二度目の手紙（ 1980. 11. 10 ）

…… 前 略 …… アリアカ牧師は彼の家族の生存を確認できない状態となっている。彼は留学を短縮して帰国することを申し出たが、当局は、彼が帰国するや否や殺害されることは確実である故をもって帰国を思い止まるよう説得している。 …… 中 略 ……

そこで次のことを祈ってほしい。

○部族戦争がすみやかに終ること。

○救援組織がこの地域に入ることが許されること。

○欠乏が終り地域が正常に復帰すること。

○アリアカ牧師一家が神のみ手のうちに在り、神の強き腕に支えられていること。

○アリアカ牧師が強められ、彼に関する神のご意志がこの出来事によって挫折されることがないこと。

ところで、ハミィドウ中将は全OCU家族に祈りを求め、クリス・パイパー氏に対しワールド・ウィジョンが活動することを求めた。……後 略……

4. オーストラリア OCUニュース・レター（1981.1月号）

……前 略…… 北部ウガンダは破壊されている。この地域では広範な飢餓の結果以前より事態は悪化している。アミン前大統領の部族の1万5千から2万人の者が他の部族の者から虐殺されたと見られる。

現在アリアカ牧師は英国での神学の勉学を終らせてカンパラに帰っている。（家族を捜している。）しかし、彼があなたがたの祈りによって強められ「全地を統べ給う神は正しいことを為し給う」との確信を持ち続けていることは嬉しい限りである。困窮の地域にいる全ての人々のため、また、神を公然と礼拝できない人々 ――特に共産主義と回教に統治されている国の人々のために祈りを続けてほしい。……後 略……

5. アリアカ牧師からの手紙（1981. 1. 23受領）

矢田部1佐殿

去る12月1日付の貴書簡有難く受領しました。スワニック大会で作られた我々の関係を神に感謝します。私はこの関係は信仰の成長とともに成長するものと思っています。

妻と子供を見出すことができました。ウガンダ北西部の戦争のため健康を害されていますがともかく生きています。家は放火されて完全に焼失し、すべてが破壊されています。

この手紙が日本OCUの方々に回覧されるかもしれません。日本の方々の祈りがいかなるものであるかを知らされることでしょう。

家を再建する助けが与えられたならば大変な感謝です。

新しい年も神の御祝福がありますように。

1980年12月29日

Rev. Caleb Ariaka Nguma
(c/o Diocesan Office,
P.O.Box 370, ARUA,
U-g-a-n-d-a)

6. 義援のための献金送付要領

(1) あて先： コルネリオ会 振替 東京3－87577

(2) 期　限： 5月末日

(3) 金　額： 任意

(4) コルネリオ会々員以外の方からでも御送付下されば感謝です。

♣ 寄信

○ 丸山忠孝師（東京基督神学校校長）

「頌栄、コルネリオ会の皆様には御清栄のことと存じます。会紙を通して皆様の貴重なご活躍を興味深く読ませていただいております。今後とも祝福のうちにご活動を続けられることを信じます。……」

○ 西　満師（東京キリスト教短期大学助教授）

「頌栄、いつもコルネリオ会誌を御恵送下さりありがとうございます。大変興味深く読ませて頂いています。また自衛隊の中にこのような会があることは小生にとって励ましとも思います。これからのお働きの上に主の力が豊かにありますようお祈り申上げます。一筆御礼まで」

○　山 根 可 式 師（単立池の上キリスト教会牧師）

「栄光在主、コルネリオ会よりいつも御心にかけてお送り頂き感謝いたしています。久しぶりにゆっくり拝見させて頂きました。信仰の真髄のときあかし、コルネリオの信仰をもってこの誌があふれて居りますこと感謝です。この時代に御誌がいよいよ祝され用いられますようお祈りいたします。御祝福を祈りつつ」

❀ 謝　辞

○　松 村 導 男 師（静岡インマヌエル教会牧師）

先生からは折にふれて励ましのお便りと共に御教会週報を送って頂いております。それによりますと御教会からは長谷川稔元海軍大佐、勝山昌文兄(7師団102特大）および中山ゆみ子姉（防医大看護学院卒）が出ておられますし、旧軍時代から軍人の伝道にも留意下さっていたご様子がうかがわれて感謝です。誌上から御礼申上げます。

○　千 葉 愛 爾 師（日基久里浜教会牧師）

しばらく健康を害されておられましたが昨今回復されました。感謝。先生はコルネリオ会顧問として、表に陰にお祈りと細かいご配慮を頂いて感謝しております。特にニュースレター編集については、その都度それとないお励ましを頂いて大いに勇気づけられております。

✽ コルネリオ会昭和55年度会計報告書（1月～12月）

会計係
56. 3. 18

収入				支出					56年度へ繰越
前年度から繰越	献金	雑収入	計	ニュースレター費及び通信費	集会費	事務費	その他	計	
137,200	218,500	440	356,140	85,385	52,260	1,080	38,910	177,635	178,505
摘要	•総会献金 63,500 •一般献金 155,000	預金利子	—	•ニュースレター費 69,620 •通信費 15,765	55.10.25 実施				•預金 99,770 •振替口座 66,847 •現金 11,888

献金者（順不同、敬称略）：井上　淑（日基小平教会牧師）・林田　芳秋・清水　善治・藤田　喜敬・小森　邦治・山田　利勝・藤田　勝男・矢野　政良・今村　和男・山下　貴久・岡林　靖之・安永　稔・藤原　正明・矢田部　稔・岡村　紀子・足立順二郎・武田　貴美・戸嶋　成忠・堀内　侯槌・蔵谷　三郎・今井　健次・勝山　昌之・中野　正治・目良　恂・越田　久一・三嶋　滋・志賀　正吾・武宮　啓夫・滝原　博・塩月　安郎

コルネリオ会事務局（JOCU）
横須賀市走水一丁目
防衛大学校応物教室
今井教授気付
（発行責任者　今井　健次）